

質問

観光客数の正確なデータの把握をし 観光事業計画の基礎数とせよ



高橋 五輪夫

答 今後の課題として研究をしていきたい

問 湯沢町の観光客数入込状況調べによると平成5年には1045万6000人が訪れたと表示され、また昨年は425万3700人と言うデータが出ています。

一時のピークから半分という数字が読み取ることができ、この数字の算出根拠、方法についてはいささか疑問を感じている。数字が正確なものである事が観光立町としての事業計画を立てる為の基礎になると考える。私が調べた海外の観光先進地は全て宿泊施設の泊数を算出根拠としている。現状の算出方法は？

答 原則民間からの報告の積算を算出していた。しかしこの数字が適正な

のかどうかは把握していない。

問 今後は一番基礎になる数、宿泊数の統計もしっかり把握すべきだと考える。

ただ今までにそのような実績がないために非常に官民の努力が必要にな

る事は理解しているが行政側からの働きかけなどで努力して正確なデータを出すことが観光行政としての事業計画を作るうえで必要なことだと思っ

答 昨年も観光協会が宿泊数の実績調査をしたが、



越後湯沢駅西口の案内所

回答率は20%しかなく観光の基礎調査として使えるデータではないが今後も宿泊業者との信頼を構築しながら統計を取っていきたいと考える。

今までの算出方法での数字の信憑性は正確とは言えないかもしれないが、今後の課題として研究をしていきたい。

問 余談であるが、最大手旅行会社JTBの調べによると、人口1人減少することで地域経済消費が約121万円減るといわれている。
人口減少社会で湯沢町だけ人口を増やすことは

理論的に難しいことは誰でも理解できる。しかし観光客と言う流動人口を増やせば外国人旅行者であれば7人、宿泊客なら22人、日帰り客なら77人で損失を埋めることが出来るといわれている。それゆえ観光は人口減をまかなう最重要政策として行うべきだ。

ゆえに宣伝だけの政策から転換し、来町する正しい人数の把握、観光客の経済波及効果の把握と調査、統計と予測をすることが観光行政の真の勤めであると考えていただきたい。

質問

挨拶運動を推進しましょう

問 挨拶の仕方でその人の人柄が分かるとまでいわれる。

長たるものが自ら先頭に立ち挨拶をする姿勢は今後の行政改革にとって目に見える改善になると思っので役場内でも率先垂範し挨拶をしていただきたいが、いかがか。

答 挨拶の大切さは十分認識している。しっかりと挨拶が庁舎内でもできるように職員に指導していきたい。

また庁舎内だけでなく庁舎外でもしっかりと挨拶をして元氣な町づくりをしていきたい。